



新刊 日六十月七
新刊 日六十月七
新刊 日六十月七

家庭群の眞剣な訓練 第二期の平市の成績

通じてよくなつた燈火管制

だがまだ不徹底が散見

防訓第二期の平市は各戸愈々警戒管制下に卒なき心構えをもつて家庭群の猛訓練が各戸に行はれ燈火管制第一日の昨十五日夜の屋外への遮光並に滅光装置等通じて良成績と云はれてゐるが指導警備側の語るものを上ぐれば

従来一時的のもの例へば電燈覆ひの如き風呂敷その他恒久的の管制器を備えられたことはよいが裏家等にまだ徹底せぬのが散見され、遮光や滅光は絶対屋外

石双煙草耕作組合 聯合會の結成式

来る廿日午前十時四倉町で 團體擴大と普及の強化

那摩平出張所管下石双耕作組合の聯合會は昨十五日石双新築双葉兩組合長が出張所と打合の創立總會を來る二十日午前十時から四倉町に於て舉行することになつた、聯合會の結成は所定の助成金を得て共同體を擴大し栽培普及を強力化するため従來組合別に借入れた肥料資金の如きも事業主体が聯合會となる關係で同會に移り總て出張所管内一丸となつて新築に邁進す

興亞の礎

石城出身の勇士
石城出身の勇士、上野野村の中山出身、立花部隊に屬し宜昌攻略戦に於て名譽の戦死を遂げた旨隣村山田村上山田出身の坂本三平上等兵から通知があつた、楠田上等兵は父金藏さん母しなさんの一人息子で應召前ま

四倉町の 節米運動

四倉町では昨十五日から節米運動を開始し自家用米を精白

で自家の農業に従事してゐたにしたりまたは手持米が豊富だからと混食しない方面には特に強く呼びかけること、この實行警備の監視には振興委員會、警防團、青年團等が警察署と協力してこれが徹底を期することになつた

産業組合が中心で 目ざましく共同施設

先づ精米、米麥、精粉所設置 事務所と共に三萬圓で

石城郡大浦村では模範農村建設の總意を以て戦時下の體制に隨進中であるが其の諸計畫は地方として全く比類がなく大字孤塚に建築中である信用部と購買部の二階建の事務所は外観のみ堂々としてなく今秋落成の筈である同所が糧機を握る精米、精麥の機械建設であるが今回村の統後率公會物等に三萬圓を投する諸設備及び郷軍分會ほか三團體へ各二十圓づつ合計百圓の寄附であつて村のものは村で仕末なす

精神國民百人一首(4) 白沙村人編

書架を整理して不圖こんなものを見出した、それは現代書壇の巨匠楠木雪村翁が遺集印刷したもの、その下層に藤田氏が複製したもので其編輯と頒布の理由は藤田氏の序文と藤田氏の慶賀の辭で明瞭であるから兩つながら採録することにした、(紙上質問に御答へ致します)

後 龜山天皇
御諱は應仁、後村上天皇第二皇子、元中九年北朝と和議成り京都に遷幸、三種神器を小松帝に傳へ給ふ、太上天皇となす
あつては國のひかりとなりやせんわがまどてらす夜半のほたるは

支那單語

そうです母ですと云ふを家母でシーチアムウ、これは母と娘ですと云ふをばい、これは小兒と小女チエー、シーチアオアルハイ、シーチアオニそれは易い事です、それは難い事です、それは好辨でナイハオ、パン

空襲警戒管制中に 狂ふへットライト

遂に檢束された大館の醉漢

平市大館ムシカド製造業若松精一(四)は昨十五日午後九時半頃泥酔してオートバイを飛ばし防空演習で空襲警戒管制中を非常識にもヘットライトを輝かし市内一丁目大通りをやつて來たので家庭群の注

戦地の便り

來カンしかも小包 嬉しいので雀躍

拜啓、過日は有難き御慰問袋を頂き誠に有難う御座いました、嬉しい慰問袋が渡された其の日は一日の任務を終り隊に歸つて一番さきに見るものは何と云つても石即下の黒板です、其所には今日の來報者の氏名が書かれてゐるので、戦友達はこの郷里からの便りが

渡邊村の 混食實行

今月末指導講習

石城郡渡邊村では母の會が主体となつて混食運動を起し去る十日から村内八部落の部落單位で常會を開き一割以上の麥その他の混食勵行を協議し

暗販賣

平署に檢舉さる

平市五丁目二四雜貨商武子園太郎(四)は一雙一號品二十三錢、二號品二十七錢の公定價になつてゐる純綿軍手は昨年九月頃から今年三月にかけて市内百澤商店ほか十數名に一雙で十五錢乃至二十錢高に販賣し不當利得百五十圓余を占めてゐること發覺して平署に檢舉された



刺意
尼子亭
別府署に送致

昭憲皇太后

御名は美子、一條忠香公御息女、高山のかけをうつけゆくみづのひきにつくをこゝろと云ふがな
〔滿壽莊註〕このがなも所望の詞なり、又曰く皇太后の御歌に「あやにしきとりかさねても思ふかなおほわん袖もなき身を」と孝明天皇の御製と同巧異曲にして皇室の御仁慈溢るるばかりに畏し、
熾仁親王
有栖川宮一品熾仁の御子、天保六年二月十九日御誕生、維新の際征夷大將軍に任じ關東に下られ、日清の役、參謀總長として廣島大本營に進まれ、日夜御精勵遂に疾志を得られ薨去あらせらる、いへどこにかかぐる旗の朝日かげみやこも山なもあふぐとしかな

